



地域とつながるお寺レポート

—11—

様々な取り組みを進める宮本住職。後ろはお寺のシンボルの一つ「至心學舎」



神奈川県川崎市中原区
浄土真宗本願寺派高願寺住職

宮本 義宣さん

神奈川県川崎市中原区の浄土真宗本願寺派高願寺では、お寺のある暮らしに親しんでもらうため、宮本義宣住職(59)が様々な試みを行っている。古民家を再利用した「至心學舎」で催しを開き、お寺ネットワークを活かした「おとりよせ市場」では全国の特産品を共同購入し、地方と都市の生活者をつないでいる。

五夜音楽祭、お彼岸のお抹茶席などを開いてきた。本堂も庫裏も鉄筋コンクリート造りという近代的な高願寺だが、宮本住職が幼

い頃は茅葺の木造家屋の庫裏で暮らしていた。「木造な意義を感じている。2019年には縁あって

「食を通じたつながり」をテーマにした。コロナ禍でも継続する取り組みがある。全国のお寺に紹介してもらった生産者等、全国各地から約20品目を毎年同じ食材が届くとは

「新鮮で美味しい食材をお安く届けてもらえて、生産者の顔が見える安心感もある。何より自分が美味しいものを食べたい」と楽し気に笑う。「季節を感じ、旬のものをつかおう」という思いが、お寺のシンボル「至心學舎」

「お寺に来て下さい」と一生懸命お誘いしても、一般の方や門徒さんでも、用がなければお寺に行かない。ならば生活に密着した用を作っている方がいい」と宮本住職。「仏事による縁もあれば、ヨカ教室に参加した

う。周辺には子育て世代も多いため「季節の食材を通して食育の大切さもアピールしていきたい」と次なる目標も見据える。

古民家移築し多目的ホールに

「おとりよせ市場」で実感、門徒ネットワーク

境内に建つ「至心學舎」は12年前、新潟県柏崎市にあった古民家を移築して完成させた多目的ホール。仏教や浄土真宗を学ぶ「ハーブ」講座、三方教室、十

い頃は茅葺の木造家屋の庫裏で暮らしていた。「木造な意義を感じている。2019年には縁あって

「食を通じたつながり」をテーマにした。コロナ禍でも継続する取り組みがある。全国のお寺に紹介してもらった生産者等、全国各地から約20品目を毎年同じ食材が届くとは

「新鮮で美味しい食材をお安く届けてもらえて、生産者の顔が見える安心感もある。何より自分が美味しいものを食べたい」と楽し気に笑う。「季節を感じ、旬のものをつかおう」という思いが、お寺のシンボル「至心學舎」

「お寺に来て下さい」と一生懸命お誘いしても、一般の方や門徒さんでも、用がなければお寺に行かない。ならば生活に密着した用を作っている方がいい」と宮本住職。「仏事による縁もあれば、ヨカ教室に参加した

う。周辺には子育て世代も多いため「季節の食材を通して食育の大切さもアピールしていきたい」と次なる目標も見据える。

う。周辺には子育て世代も多いため「季節の食材を通して食育の大切さもアピールしていきたい」と次なる目標も見据える。

は12年前、新潟県柏崎市にあった古民家を移築して完成させた多目的ホール。仏教や浄土真宗を学ぶ「ハーブ」講座、三方教室、十
い頃は茅葺の木造家屋の庫裏で暮らしていた。「木造な意義を感じている。2019年には縁あって
「食を通じたつながり」をテーマにした。コロナ禍でも継続する取り組みがある。全国のお寺に紹介してもらった生産者等、全国各地から約20品目を毎年同じ食材が届くとは
「新鮮で美味しい食材をお安く届けてもらえて、生産者の顔が見える安心感もある。何より自分が美味しいものを食べたい」と楽し気に笑う。「季節を感じ、旬のものをつかおう」という思いが、お寺のシンボル「至心學舎」
「お寺に来て下さい」と一生懸命お誘いしても、一般の方や門徒さんでも、用がなければお寺に行かない。ならば生活に密着した用を作っている方がいい」と宮本住職。「仏事による縁もあれば、ヨカ教室に参加した
う。周辺には子育て世代も多いため「季節の食材を通して食育の大切さもアピールしていきたい」と次なる目標も見据える。